



●Tackle Guide
釣れるサイズは3~4キロがアベレージなので、ハリスは8号を推奨。エサに大羽イワシを使う場合はハリもイセアマ15~16号と大きめのほうが掛かりがいい。

船長の差し出すタモで取り込まれたヒラメは1.5キロ。「ギリギリキープサイズかな。バンバン釣れるときはあのサイズでも躊躇なくリリースですよ」と黒田さん。その数分後、次は左胴の間の飯塚さんの竿がズドンッ！取り込み時に海面でひと暴れしてヒヤッとしたが、無事2.2キロをキヤッチ。流し変えると今度は左トモの鹿野さんの竿がズドンッ！キヤッチされたのは堂々たる3.5キロ！と表現したいところだが、当地のヒラメ釣りのポテンシャルを知るメンバーたちにとってはごくごく普通サイズの扱いだ。それにしてもエサのイワシが20センチもあるサイズだというのに、いきなりズドンッときて掛かってしまうことには驚いた。「生きエサの場合はエサが暴



▲四倉沖のヒラメは翌年1月ごろまでロングランで楽しめる

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!
これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

真夏の炎天下の釣りは体力を消耗します。帽子や日焼け止め、UVカットウエアなどでフル装備。まめな水分&塩分補給を忘れずに、安心安全に楽しみましょう。

大判ヒラメの宝庫 四倉沖へ 異次元の釣れっぷりを体感せよ

◎福島県四倉港発↓四倉沖
本誌ADC(東京)権名義徳 Yoshinori Shima

知得! 四倉沖のヒラメ釣りのコツ

釣りは魚礁周りなので、底ばかりを狙っていると根掛かりだらけ……ということに。捕食力のある大きいヒラメほど高いタナまでエサを追ってくるので、根掛かりを避ける意味も含め、タナは底から2~3メートルと高めに取ったほうがいい。ちなみに私の竿にヒットしたときのタナは底上4メートルだった。また本文中でも述べたが、死にエサの場合はアタリがきてからハリ掛かりするまでがあっという間だ。ズドンッときた時点で合わせを入れるくらいがいい。状況でイワシエサを持参するときは最低20匹ほど用意しておきたい。



▲大判ヒラメ獲得のタナは高めのタナ取り

3~4キロは当たり前。5~6キロなら納得。8キロオーバーも珍しくない。そんな大判サイズのヒラメがトップシーズンになればいい人で10枚以上釣れることも!!
夏場よりスタートする福島県四倉沖のヒラメ五目。
その異次元のような爆釣ぶりは噂では聞いていたもの、なかなか釣行の機会に巡り合えずにいた。
そんな折、本誌レポーターの黒田さんから、「弘明丸を仕立てましたからご一緒ませんか」とうれしのお誘い。
二つ返事でメンバーに加えていただき、7月中旬、四倉港へと向かった。
大羽イワシで勝負
総勢12名の準備が整ったところで4時40分に出船。まずはサビキ仕掛けでエサ

に使うイワシやアジ、サバなどを釣るのだが、今期はまだそれらが回ってきていない。そのまま釣り場に直行し冷凍もしくは冷蔵のイワシエサで狙うとのこと。
生きエサあつてのヒラメ釣り。これで今日は終わったあ、と落胆してしまうところだが、「生きエサでも小さければ先にメバルやソイばかりが食ってきてしまう。それなら死ん

でいても大きいエサのほうがいい」と、皆さん当たり前のようにクローラーから持参した大羽イワシ(20センチくらい)のマイワシを取り出す。港を出てから20分ほどで釣り場に到着。
「はい、やってください」まずは水深23メートルからスタート。
早々に右トモ氏の竿が絞り込まれた。

▼鹿野さんが上げた3.5キロ、これが当地のアベレージサイズ



「フオウツッ! やったー!!」
検量するとジャスト6キロ。ミッシヨンの達成とばかりに、大判ヒラメを上げた験がいい自分のタックルを弟さんに託すと、これまたヒット。
じわりじわりと一定の

◎船宿information
福島県四倉港
弘明丸
☎0246-32-4635
(詳細は巻末の情報欄参照)
▶料金=午前ヒラメ五目乗合1人8400円(水付き)
▶備考=予約乗合。土日祝日は4時半集合、平日は9時集合。駐車スペースあり。午後船はスロジギ、一つテンヤマダイに出船



佐藤 芳紀船長

テンションで巻き上げ、取り込まれたのは4キロジャスト。釣りは始めたばかりという弟さん。初めて釣ったヒラメがこのサイズならもう病みつきだろう。
当日のヒラメの釣果は1~6キロを船中8枚。
「こんな釣果じゃいつも来るお客さんに怒られちゃうよ」と恐縮? 気味の船長。
「スイッチが入ればそれぞれ入れ食い。生きエサも死にエサも関係ありません。昨年釣行で、私は8.8キロを頭に11枚の釣果を上げた日もありましたよ」と黒田さん。
信じてみたいが、型、数ともに四倉アベレージはハンパではない。異次元の海へあなたも行ってみないか!